

2009年(平成21年)

2月20日

金曜日



天気 6 9 12 15 18 21時

札幌	☁	☁	☁	☁	☁	80	0
室蘭	☁	☁	☁	☁	☁	90	3
苫小牧	☁	☁	☁	☁	☁	90	-6
小樽	☁	☁	☁	☁	☁	90	-2
旭川	☁	☁	☁	☁	☁	70	-8
函館	☁	☁	☁	☁	☁	90	-4
釧路	☁	☁	☁	☁	☁	80	-2
東京	☁	☁	☁	☁	☁	90	-10
大阪	☁	☁	☁	☁	☁	90	14

朝日新聞 一面 目次 にも掲載!!

検証 中川氏、ローマでの2日間

中川昭一・前財務・金融相のローマでの「もうろう記者会見」。疑われた飲酒についての説明は途中で変わり、最後は引責辞任に追い込まれた。会見前に何があったのか。中川氏のローマでの2日を検証した。 **27面**

百貨店 丸井今井支援巡り神経戦

1月の全国百貨店の売上高が9.1%減と大きく落ち込むさなかに、自力再建を断念した北海道の丸井今井の支援に高島屋が名乗りを上げた。「地域一番店」をめぐり、支援の検討を続ける三越伊勢丹と奪い合う可能性が出てきた。 **11.26面**

北海道 聴覚障害学生の受講支援

大学の講義で使う映像資料に字幕を入れて、聴覚障害の学生を支援する活動が札幌学院大で本格化している。道内の大学では珍しい取り組みで、利用者の評判は上々。19日には、読みやすい字幕作りのため、意見交換会も開かれた。 **26面**

雇用 不況で注目、介護職 **20面**

研究 先端医療特区、見えぬ利点 **19面**

紙面審議会 新年紙面のあり方は **15面**

政治4面/政策6面
国際8・9面
経済10.11.13面
金融情報10.12.13面
声・主張14面
スポーツ16.17面
生活20.22面
囲碁・将棋17面

科学19面
小説19面
道内24.25.26面
TV・ラジオ
19.25.26.30面



<http://chiezo.jp/>
現代用語の知識情報源

新 あらたにす
<http://allatany.jp>

朝日新聞北海道支社 発行所:〒060-8602札幌市中央区北2条西1-1-1
電話:011-281-2131 www.asahi.com



心と技で水の価値を創造する

オルガノ

水のトータルエンジニアリング <http://www.organo.co.jp>

金融 日銀、社債1兆円買い切り

日本銀行は企業が発行する社債を1兆円を上限に買い切るなど、企業の資金繰り支援を拡充した。中央銀行にとってはリスクを直接引き受ける「禁じ手」だが、金融危機で取引が凍りつく市場は、早くも追加策を催促している。 **6面**

事件 宝塚市長、収賄容疑で逮捕

兵庫県宝塚市の公営霊園造成工事をめぐり、県警は元衆院議員の阪上善秀市長を100万円の収賄容疑で逮捕した。阪上市長は同工事に中堅ゼネコンを参入させようとした会社社長に「金を貸してほしい」と現金を要求したとされる。 **29面**

社会 大麻、過去最多2778人検挙

昨年の大麻取締法違反による検挙人数が過去最多の2778人となった。10年間で2.5倍に。種子の入手は規制対象外で、ネットで簡単に調達できるなどの背景がある。「あらゆる世代に浸透している」と警察庁は警戒する。 **28面**

経済 景気判断5カ月連続引き下げ

政府は2月の月例経済報告で、景気の基調判断を5カ月連続で引き下げた。「5カ月連続」は、記録が確認できる98年以降では01年2～6月と並び最長。比較的堅調だった個人消費の減少傾向が鮮明になってきたことが大きい。 **11面**

検証 中川氏、ローマでの2日間

中川昭一・前財務・金融相のローマでの「もう

札幌学院大、聴覚障害の学生支援

映像資料に字幕

大学の講義で使う映像資料に字幕を入れて、聴覚障害のある学生を支援しよう。そんな活動が、江別市の札幌学院大で本格化している。道内の大学では珍しい取り組みで、「映像を見ながらナレーションや会話が分かるため、内容を理解しやすくなった」と利用者の評判は上々だ。19日には作る側と利用する側の意見交換会もあった。

(平間真太郎)



札幌学院大には現在、聴覚障害のある学生が11人在学している。普段の講義では、障害のある学生を支援する学生組織のメンバーが、聴覚障害の学生の隣に座り、教員の話を入力したり、ノートに記入したりしてきた。

一方、教育や社会学、福祉関係の講義を中心に、ビデオの映像資料を教材として使うケースが年々増加。だが、字幕が入ったものは少数で、各教員が映像で流れる音声をお

意見交換会では、会話の内容がスクリーンに映し出され、聴覚障害の学生にも分かるような工夫がされた。江別市の札幌学院大

学内で工夫 講義スムーズ

らかじめ紙に印刷して配っていたが、聴覚障害の学生が画面の進行に合わせて内容を理解することは難しかった。

支援組織のメンバーが音声を聞いてパソコンに入力することも試みた。だが「ナレーションが速かったり、映像を見ながら解説する教員がいたりするなどで、入力が追いつかなかった」(新國三千代・人文学部教授)。

そこで07年11月、聴覚障害の学生からの要望もあり、教職員や学生のパソコン利用を支援する組織に所属する11人の学生を中心に、映像に字幕を入れる研究を始めた。利用する側の意見を聞きながら、一度に表示する行数や文字の大きさを検討するなどの試行錯誤を重ねた。

半年後、動画編集ソフトを使ってパソコンに取り込んだ映像資料の画面の下に、事前起こした音声部分を挿入する方法を確立。資料1本につき2人の学生が2〜3週間をかけて完成させる。これまでに約60本に字幕を入れた。リーダーを務める社会情報

学部4年の北見快催さん(22)は「字幕は読みやすいように2〜3行で表示している。ただ、長い会話を決まった行数に収めたり、専門用語を正しく変換したりするのが大変」と話す。

19日には、学生や教職員約30人が、字幕を挿入する作業方法についての意見交換会を開催。読みやすい字幕を作るため、今後は映像資料の担当教員に監修してもらうことなどが話し合われた。新國教授は「すべての映像資料に字幕が入るようになるのが理想だが、まずは学生や教職員の間で字幕挿入が広がってほしい」と話す。

全国の大学・短大・専門学校に通う聴覚・言語障害のある学生(07年度)は1355人。映像資料への字幕挿入活動は、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(事務局・茨城県つくば市)と連携する全国13大学(札幌学院大を含む)が熱心だが、「まだ一般的な動きにはなっていない」(新國教授)という。